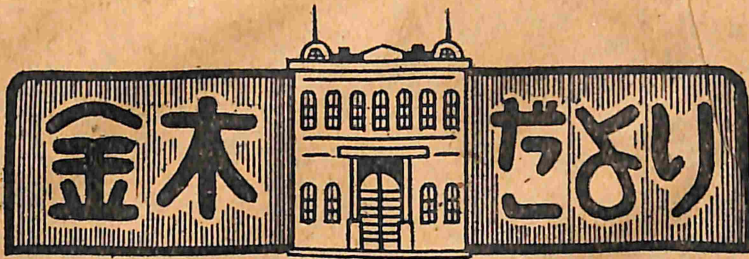


11号
附
録



発行所 金木町役場
印刷所 東奥日報社
印刷局
金木だよりは毎月一回発行
し各冊毎に一部ずつ無料
配付致しております。

第三十五回定例町議会より

本年度の予算説明

金木町長 花 田

予算議会である第三十五回定例町議会は三月二十六日から二十八日まで三百四十二件のほる議案を慎重審議したその結果は、全案件は原案通り可決となったが、その中、町行政運営上の基礎であるところの『昭和二十八年度歳入歳出予算』についての『町長挨拶』及び『提案理由の説明』を一般に公開することにする。

◇町長挨拶

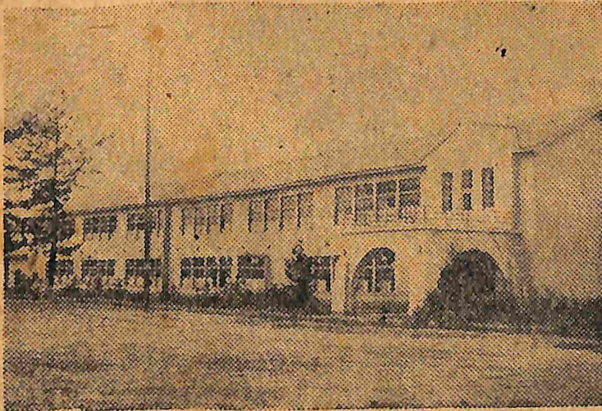
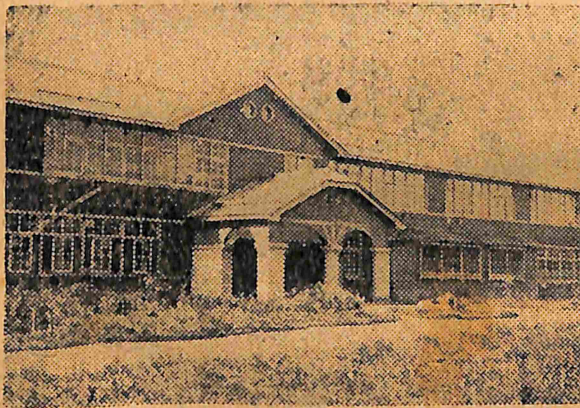
本日ここに予算議会とも申すべきところの本年度最後の第三十五回定例町議会を、議員各位の御出席を辱うして開会でき得ましたことは、誠に有難く存じ、厚く御礼を申し上げますとともに、一言御挨拶を申し述べさせていただきます。

昨年四月二十八日国民待遇の講和条約の発効を見、わが国が『独立国』として発足以来、既に十一月を経過したのでありますが、この間国政においては勿論、地方自治体の運営においても占領下の異常な形態を脱却しきれず真に独立国として国民の世論を基礎とする産業経済、教育、文化すべてに亘り自主的再建の方向に向いつつあるが、これが実現には、なお相当の日時と努力と思い切った施策が必要であるのを私は身を以て体験致して居る様な次第でございます。

更に各位御承知の通り、昨年八月吉田首相が、衆議院の投打解散を断行後、僅か半年にしてこの度の第十五回国会において、明二十八年度の予算案の外、義務教育学校職員法案、改正警察法案、恩給改正法案、スト規制法案などの五重要法案をはじめ、大部分の法案が不成立のまま、自由党内紛に端を發し、去る十四日吉田内閣の手により再び運命的な、そして政史上異例であるといわれる解散が行われ、来月十九日には衆議院議員総選挙、二十四日には参議院議員半数の任期満了による通常選挙がそれぞれ施行されることになつており、二十一日参議院緊急集会の本議会において、一般会計、特別会計、同行政府関係機関の暫定予算三案は可決にはなりましたが、本予算は総選挙後新内閣の成立を経て

みましても、二月二十日アイゼンハワー元帥が米大統領に就任後二カ月、対ソ強硬外交のスタートを切つた矢先、ソ連陣営においては、世界の偉大なる指導者といわれたスターリン首相の死によるマレンコフ新政府が発足しその直後ベルリン上空でソ連ジェット機の英国爆撃機の撃墜事件で第三次世界大戦の不安の念を抱いたこともあつたのでございますが、最近マレンコフ首相は『ソ連の外交政策は戦争をなくすることである』といひ、またソ連首脳者は『米ソ間によつたわらぬ問題にしても平和交渉によつて解決し得ないものはなにもない』等の平和宣言をしており、これに対して米国及び西欧側では、当初の対ソ方針をやや変更し、受身の立場をとり、『冷い戦争』は新段階に入ったと観測しているようであり、東、西ドイツの統合、エジプトにおけるスイス連河、イランの石油、東南アジア諸国の事件、米政府の台湾中立政策の廃止、そして朝鮮、未だに何んの見透しつかない諸問題を中心に、東西両陣営の世界政策が今後如何なる形で展開されてゆく

④ 金木小学校 ⑤ 金木中学校の新築舎



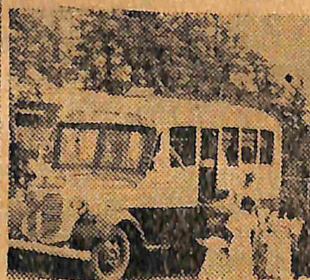
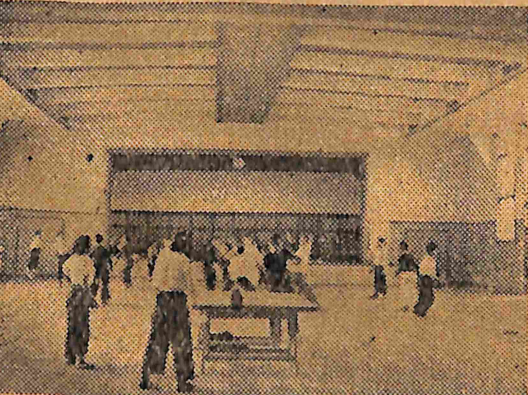
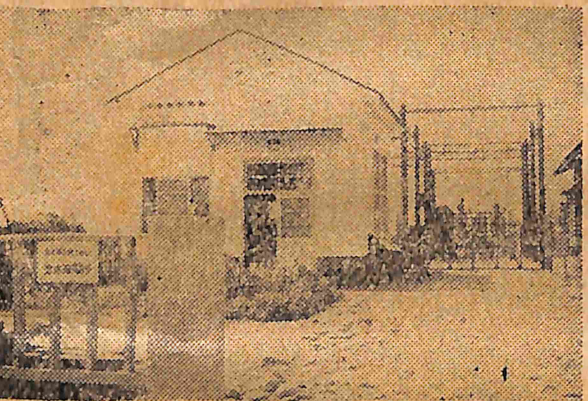
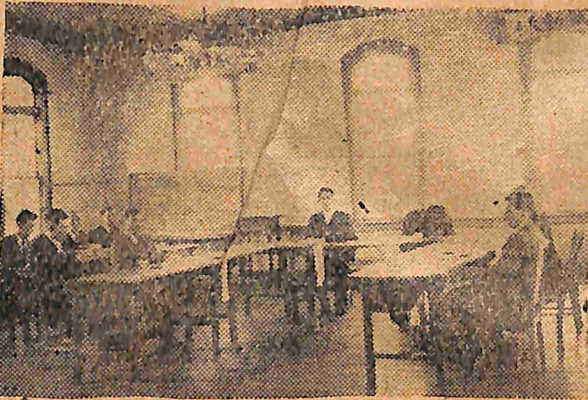
のか恐らく何人といえども予測しえないことと存じます。

我が国としましては国連加入の問題、再軍備、非の問題、中共、そして台湾の国府との関係、さらに賠償の問題など、新生日本の再建途上には、幾多の難関が控えておりますが、これらの困難を克服してこそ始めるのではないかと考えておる次第でございます。

これがためにはまず占領下にあつて陥り勝ちである他力依存の情性を放擲し、日本人は日本に即した

即ち自主的で眞に民主主義を体得した国民としての自覚と責任ある行動が強く要請されるべきであり、またその時機に至つたのではないかと存する次第であります。

不肖私が昭和二十六年町長に就任以來既に二年を経過し、將に三年を迎えようとしており、この間町議会議員並びに町民各位の絶大な御指導と御鞭撻により、町政の執行を担当して参つたのでござい



① 会議中の町教育委員会

② 新築成つた変電所

③ 独立昇格はしたが小学校に間借りの高専学校 (下段) 町へ移管になつた 芦野公園 (下段) 会車力間のバス開通

※ ※

上、国家財政との関連もあり、次に町財政はひつぱくしてはきておりませんが、各位の御協力を得ま

す。さてそれでは明二十八年度において、このひつぱした町財政の予算を如何なる方針で編成したかを次に述べてみたいと存じます。

災害復旧工事、グラウンドの第一次改修、自動車ポンプの購入、公会堂を開放しての保育所の設置、町教育委員会の設置、金米高等学級の独立昇格、芦野公園区有地の町移管、変電所の誘致完成、金米車力間バスの開通、藤田橋と神原間の築堤工事、それに加えて本年度産米の供出割当を見事完納する

など、ただただ深甚なる敬意と満腔の謝意を表するのみでございませう。さてそれでは明二十八年度において、このひつぱした町財政の予算を如何なる方針で編成したかを次に述べてみたいと存じます。

前にも申し上げましたところの他力依存であつてはならないことは、大きくはわが国が独立し、その態勢を日本として備えなければならぬことは当然のことでありまして、それに伴い地方財政もまた、年々減額される平衡交付金をみれば判

はありますものの、特に県の査定を受け、政府当局の確答のあつた実現可能な保育所及び町営住宅の新築、それに藤田小学校の増改築と災害復旧工費費を、なほまた明日県から県官が参り調査しました所の浮洲地区の排水ポンプ工事を始め、金米川の改修工事、金米高等学校々々新築等の促進費、それによりんご振興対策費、ラジオ東奥及び商工業者振興対策として、の県信用保証協会への出資金等を計上致しましたがの主なものであります。以上のうちで、最も憂

昭和28年度青森縣北津軽郡金木町歳入歳出予算総計表

款 別	歳 入		比 増	較 減
	本年度予算額	前年度予算額		
1. 町 税	12,285,757円	7,403,350円	4,882,407円	円
2. 地方財政平衡交付金	5,600,000	5,250,000	350,000	
3. 公企業及び財産収入	20,450	20,450		
4. 夫役及び現品料	300	300		
5. 使用料及び手数料	239,600	228,100	11,500	
6. 国庫支出金	4,409,655	3,919,800	489,755	
7. 県庫支出金	1,097,477	48,730	1,048,747	
8. 寄附金	200	200		
9. 繰越金	1,000	20,000		19,000
10. 雑収入	10,000	1,005,000		995,000
11. 町歳入合計	29,414,439	21,295,930	8,118,509	
1. 議 費	820,190	836,049		14,859
2. 役 費	6,707,646	5,378,878	1,328,768	
3. 警 費	998,157	793,325	204,832	
4. 土 費	551,380	458,000	93,380	
5. 教 費	8,081,208	8,569,765		488,557
① 教 員 費	394,800		394,800	
② 金 小 学 校 費	773,760	724,040	49,720	
③ 川 倉 小 学 校 費	401,020	394,425	6,595	
④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 社 会 教 育 費	314,538	316,880		2,342
⑨ 高 等 学 校 負 担 金	658,790	586,120	72,670	
⑩ 社 会 教 育 費	460,000	400,000	60,000	
⑪ 營 繕 修 費	78,300	148,300		70,000
⑫ 營 繕 修 費	5,000,000	6,000,000		1,000,000
6. 社 会 勞 働 施 設 費	7,691,000	1,930,265	5,760,735	
7. 保 健 衛 生 費	439,333	308,745	130,588	
8. 産 業 経 済 費	1,318,760	804,245	514,515	
9. 財 産 調 査 費	313,515	279,936	33,579	
10. 統 計 費	54,000	54,000		
11. 選 挙 費	216,700	52,900	163,800	
12. 公 債 費	1,450,171	1,272,409	177,762	
13. 支 出 金	279,379	170,500	108,879	
14. 地 方 振 興 費	193,000	143,000	50,000	
15. 予 備 費	300,000	244,913	55,087	
歳 入 歳 出 合 計	29,414,439	21,295,930	8,118,509	

慮されますことは災害復旧工事に
対します金融面の問題でございま
す。
これは去る二十四日五所川原公民
館でひらかれまし農業者振興計
画に関する協議会の席上で『弱体化
している農協に対しての融資は従
来以上に制限する』といわれてお

り、更に農業者団体の再編成が叫ば
れ殊に相当以上の予算計上を期待
される食糧増産五年計画が法制
化されておる現在、当町の農業者
同組合の強化は当然なされなけれ
ばならない時期ではないかと考え
ており、これにつきまして、ひ
とり農業者振興上の災害復旧工事の

問題だけでなく農村経済即ち農民
の所得向上更に町発展のためにも
御協力願いたいと存する次第で
ございます。
この反面悪いことをこの席上で
一つ御披露申し上げたいことは近
当町にも観光協会が組織されるこ
とになり、明年度から新構想によ

る観光町金木町の建設に邁進する
ことになつており欣快に堪えない
ところでございます。
また自己財源獲得のための国有林
開放、そして六百町歩の開田計画
に関するダム建設の資料調査等種
々問題は山積しておりますが、新
会計年度も数日後に控えておりま

す今日この際更に覚悟を新たに
町民と共に心を一にし、挙町一致
町政発展に微力を捧げたいと存す
るのであります、今後とも各位
の一層の御協力をお願い申し上げ
次第でございませう。
昭和二十八年歳入歳出予算案に
ついてその概要を説明申上げま
す。
歳入とも合計貳千九百四拾壹万
四百参拾九円
四角
昨年度当初予算より
八百拾壹万九千九百九拾九円
八百拾壹万九千九百九拾九円
議員各位もご承知の如く昨今にお
ける地方自治体の財政状況を見ま
すに地方自治法に定められている
ところの最少限度の使命を全うす
るためにも、その経費の捻出に悩
みつつある現状であり、また国家
財政にしても急速にその好転を期
待することが困難な関係から地方
財政平衡交付金にも関連性を持つ
ために増額交付も余り期待が出来
得ないのでございませう。
しかるにその反面たびたび申上げ
る問題ではあります昭和二十四
年における小中学校舎の焼失は町
財政に一抹の暗影を授けたもので
あり、而してこれが復旧面に要し
た巨額の経費を増税による直接町
民の負担に委ね候つことなく借入
金のみに依存の結果は含に属する財
源不足を招来し赤字財政への因を
なしたものと思われるのでござい

ます。
一方財政の需要は年々増大の
一途を辿り、加えて昨年十一月か
ら実施されました職員給与ペー
スの引上げによる多額な財政需要
それまた早急なさねばならないと
ころの町民の社会福祉施設、はた
また農協一本化対策、産業の開
促進対策、中小企業金融対策等々
の財政需要により益々困難の度を
増し昭和二十七年年度においても相
当の歳入欠陥を余儀なくされる現
状でございませう。
新年度の予算編成に当りましては
かかる状況に鑑み努めて收支の均
衡を保持することに意を用い事情
の許す限り歳入の増加を図ること
としました歳出については、財源並
びに事業効果の関係から見て公共
事業、国庫補助事業等町政の発
展に寄与し、しかも緊急と認めら
れるものについては積極的にこれ
を計上し町費、経常経費について
は義務的経費を除き原則として昨
年度当初予算に給与ペーシ引き上
げに伴う、増加所要額を加えこれ
に適正な調整を加え計上致したの
でございませう。

以上申上げた諸点を勘按して昭和
二十八年年度の予算案を決定しまし
た結果、歳入歳出とも合計二千九
百四十一万四千四百三十九円と相
成つたのでございませう。
次に予算の内容につきまして歳出
からその概要を御説明申上げます

【歳 出】

歳出予算総額において昨年度当初予算に比べて八百一十一万八千余円の増となつておるのであります。総額を各款別に申し上げます。

①一人件費は総予算額の三七・四%以上予算総額二千九百四十二万四千四百三十九円の中に含まれてゐる人件費、即ち職員報酬、職員給料、職員及び各委員手当、借入金、利子並びに各種負担金総額は約一千百万円でありまして、総予算額の三七・四%を占めておるのであります。

②議会費

八二〇、一九〇(二・八%)

昨年より一四、八五九円減。先ず第一款議会費において昨年度に比べて一四、八五九円の減額は、研修費において二六、〇〇〇円、交際費において一四、〇〇〇円、旅費一七、〇〇〇円の減額となり、また議員報酬及び手当において給費ベース引上げに伴う七一、八二五円の増額と相成つております。

③役員費

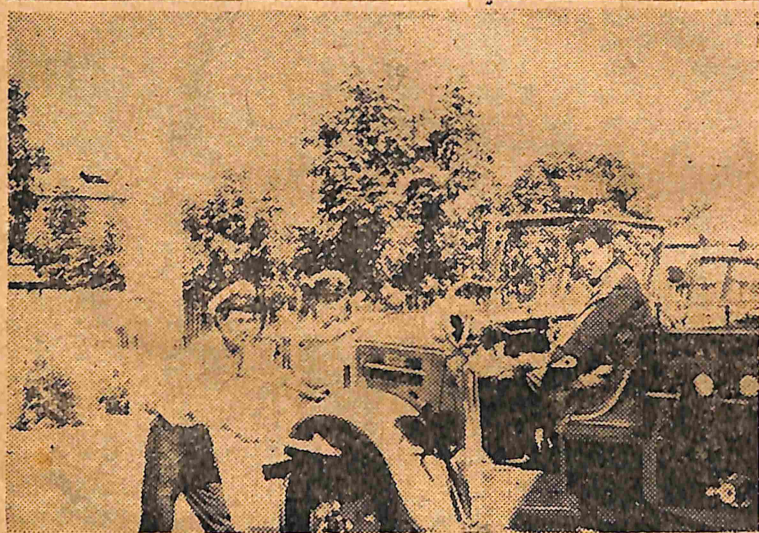
六、七〇七、六四六円(二二・八%)

昨年より一、三三八、七六八円増。第二款の役員費において昨年度に比べて一、三三八、七六八円の増額となつておりますが職員給において給料ベース引上げに伴う増額は九四〇、三三四円で旅費におい

て一〇、〇〇〇円の減額諸手当において三五八、六〇〇円の増額、交際費において三〇、〇〇〇円の増、需用費において四九、六七二円の増、維持修繕費は昨年同様一〇、〇〇〇円、第二項の研修費及び報償費は昨年同様負担金において三九、八二八円の減となつております。

④警察消防費 九九八、一五七円(三・四%)
昨年より二〇四、八三三円増。第三款の警察消防費は昨年度に比し二〇四、八三三円の増額計上でありまして、火災時においてポンプの迅速出動は今更申上げる迄もございませぬが分秒を争う問題でありますので、これが完壁を期する意味合から新年度において常備運

(いつでも出動できるようにと手入中の運轉手)



転手一名を設置する計画を致したのでございませぬ。

この経費即ち職員給、諸手当とも十二万円計上いたしました。諸手当において四七、一〇〇円の減額計上でこれらとして夜警費の減額分をございませぬ。

旅費は昨年同様需用費において四八、五三〇円の増額計上の主なるものは燃料費三、二五〇円、食糧費一、三〇〇円、修繕費一〇、〇〇〇円、備品費二、〇〇〇円、その他において二、九八〇円の増額となつており負担金補助及び交付金において一、五七〇円、研修費において一〇、〇〇〇円の増となつております。

⑤土木費

五五一、三八〇円(一・八%)

昨年より九三、三八〇円増。第四款土木費において九三、三八〇円の増額計上でありませぬが、道路維持修繕費において五〇、〇〇〇円の増、施設費において二〇、〇〇〇円の減となつておりますが

昨年度において五カ年計画予定の金木町総合グラウンド第一期工事費として十五万円計上のごとく新年度においてこれが第二期工事費として十万円也を計上し、また川倉小学校グラウンド改修費として三万円也を計上致した次第でございませぬ。

なお川倉校グラウンドの改修について傾斜面甚だしく部落民多年の要望事項でもあるのでございませぬ。

街燈費で四三、三八〇円の増額は配電会社よりの請求額計上でのその額につきましては後日本職より会社へ対し篤と交渉を致して見る所存でございませぬ。

金木川改修工事対策費二万円也は新規計上のもので、これはご承知の如く一億の工事費とみられる金木川改修工事の調査実施諸経費即ち工事促進費として計上致した次第でございませぬ。この問題については全会一致金木町の百年の計をたてるためにも是非実現致し度目下関係機関に折衝中とございませぬ。

⑥教育費

八、〇八一、二〇八円(二七・%)(四)

昨年より 四八八、五五七円増。次に第五款教育費についてご説明申し上げます。

▲『教育委員会』

本項目はご承知の如く教育委員会の発足に伴ひましての新規計上で委員報酬に六八、四〇〇円、職員給即ち委員会書記一名の俸給年額として十四万四千円(月額二二、〇〇〇円)諸手当即ち職員の扶養手当を初めその他の手当として六万九千四百円、旅費として三万円、研修費として二万円、需用費五万三千円、諸費一万円で合計三、九四八、〇〇〇円の計上でございませぬ。

▲『金木小学校費』

職員給において三六、〇〇〇円増額であります。これは給料ベースの引上げによる増額で諸手当に於いての七千六百円の減額は扶養家族の減によるものであります。維持修繕費において六〇〇円の増は大東ヶ丘分校の入夫費引上げによるもので、報償費五千円の増、需用費一四、二〇〇円の増、営繕費一万円の増、負担金及び交付金八四八〇円の減で総額七七三、七六〇円で昨年度に比して四九、七二〇円の増額計上とございませぬ。

▲『川倉小学校費』

職員給一、四〇〇円増額は給料ベースの引上げによる増額、諸手当九、六三五円の増もベース引上げに伴う増額、維持修繕費で二六〇円の減、報償費で三、五九〇円の減、需用費一五、六三〇円の増、負担金五、〇四〇円の増となつており、総額において四〇一、〇二〇円で昨年度に比し六千五百九十五円の増となつております。

▲『藤田小学校費』

職員給において一三、二〇〇円の増額は各校同様給料ベース引上げによるもので諸手当もまたベース引上げによるものでございませぬ。維持修繕費において一四、五〇〇円の増額は戸、窓その他の止むを得ざる応急修繕費の増額計上でありませぬ。報償費は昨年同様、需用

費における二五、七八〇円の減額は校舎増改築を前提とした減額計上であり負担金補助及び交付金に

おいては四、四五〇円の減となつており総額は三二四、五三八円で昨年度に比し二、三四二円の減額計上と相成つております。

▲『金木中学校費』

職員給において三二、四〇〇円の増額は各校同様に給料ベース引上げによるもので諸手当における一七九一〇円の増額もこれまたベース引上げによるもので需用費におい

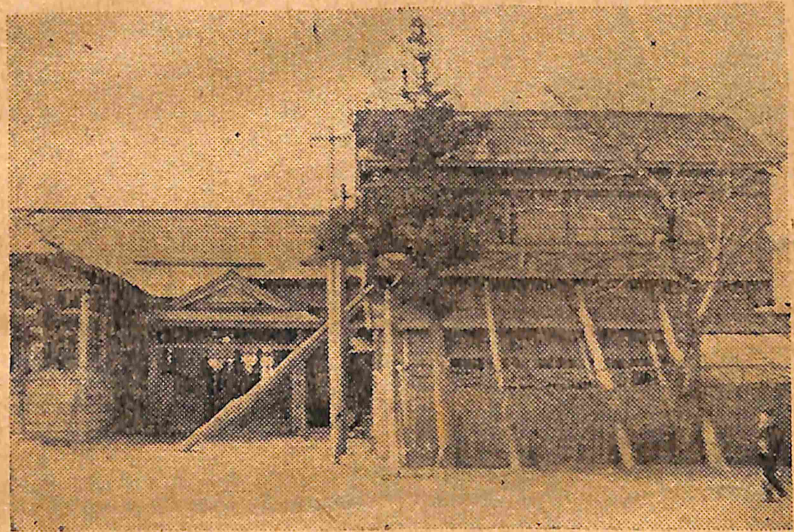
▲『高等学校負担金』

高校に対する当町負担金は四十六万円の計上で昨年度に比し一割五分増の六万円の増額と相成つておりますが、これは前にも述べましたように職員の給料ベース引上げに伴う各校同様の自然増と備品その他内容充実に基づく分担費用でございます。

▲『社会教育費』

総額において七〇、〇〇〇円の減額は前年度に計上いたしました広報費用の金額を他の款上移行いたしました結果でございます。諸手当として一八、〇〇〇円、需用費とし

(老朽校舎の蒔田小学校)



て一〇、三〇〇円、教育研究費として五〇、〇〇〇円、総額七八、三〇〇円の計上でございます。営繕費についてでございますが、御承知の如く蒔田小学校舎は建築以來七十四年を暦し老朽学校でございますので非常に危険な状態にござ

いますのでこれを見るに憚りずこれを先程防災判定を受けることとなり新年度においては是非共これが増改築を致すべくこの建築費

絶大なる御協力を戴かなければならないと存じています。

以上を持ちまして教育費に対する説明の概要を終りましたが、教育費総額において八百八万二千二百八円となり前年度当初予算に比し四十八万八千五百五十七円の減と相成つておりますが、営繕費において百万円の減がございますので経常的教育費予算は実質的に五十一万一千四百四十三円の増額と相成るのでございます。

◎社会労働施設費

七、六九一、〇〇〇円 (二六・二%)
昨年より五、七六〇、七三五円増第六款社会労働施設費の内訳はつぎの通りでございます。

▲『民生委員費』

諸手当において六、八〇〇円の増額計上はベース引上げによる増額

▲『保育所新築費』

これも社会福祉の面より見まして最も重要な問題でしかもこれが新築につきましては数度に亘つてその筋へ陳情の結果漸くこれに対する裏付補助金の目安もついたような次第で今回を逸したならば今後

▲『福祉施設費』

一七、四〇〇円の増額は遺族援護費の増額計上によるもので総額において三七、四〇〇円前年に比し一七、四〇〇円の増額となつております。

▲『営繕費』

公営住宅新築費でございますが、このことにつきましては昨年度においても五戸の建築をいたすべく予算措置を見たのでございますが借入金関係その他で残念ながら実現を見なかつたのでございます。

▲『公園費』

ご承知の如く当町青野公園はその雄大さにおいてまた自然美においては全く稀に見る天然公園でございます。世人のいわれるように金木町の発展の一大要因とも思われるのでございます。従いましてこれがためには町民が一体となつて遊覧客の誘致策に力を致したならば商工業者はもちろん町経済全般に及ぼす有形無形の恩恵も亦大きなものと信ずるのであります。

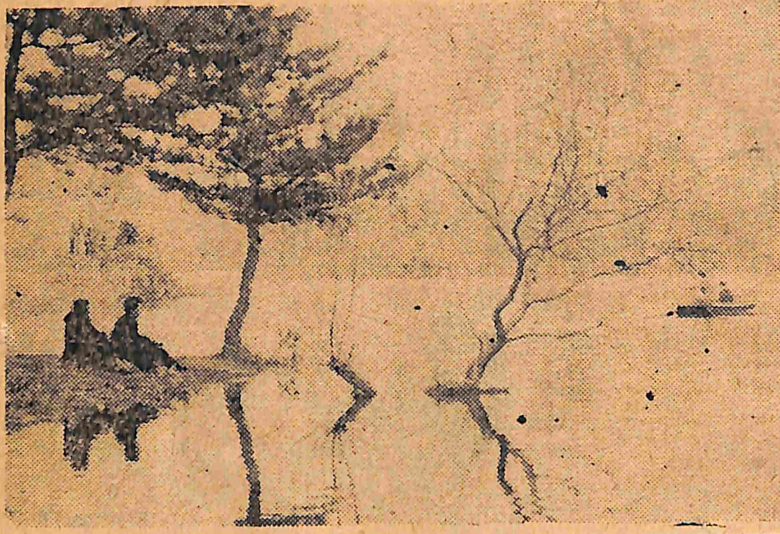
▲『保育所新築費』

折角の宝も埋木と化すおそれもございますので新年度における第一施設と致しまして核の苗木五百本を補植しました他施設費をも見込み十五万円を計上致したのでございます。

▲『保育所費』

職員給において三四七、四〇〇円の増額は給料ベース引上げに伴う増額分と保母増員による増額計上でございます。旅費において二二、〇〇〇円の増額はこれもベース引上げによる自然増と職員に伴う増額計上で諸手当十一万二千二百三十五円の増額はこれまたベース引上げによ

つぎにこの保育所新築費に対する財源措置として国庫補助百六十万円、県費補助八十万円で町負担は百万円と相成つておるのでございます。



(西北地区唯一の天然 芦野公園)

る増と職員増員に伴う増額計上
でございます。
報償費三四、六〇〇円の減、会議
費六、〇〇〇円の増、新規、修養
費三、〇〇〇円の増(新規)負担
金七、〇〇〇円の減、維持修繕費
五、二〇〇円の増で、総計に比
五八三、三三五円の増額計上と相

成つておるのでございます。
これに対する財源裏付といたしま
して国庫補助八〇九、六五五円、
県費補助一〇二、二〇七円、合計
九一〇、八六二円の補助額があり
町費負担分は二万七千七百三十
八と相成るのでございます。

◎保健衛生費
四三九、三三三元(一・四%)

昨年より一三〇、五八八円増
▲『傳染病予防費』
職員給において二一、六〇〇円諸
手当において三二、五八八円の増
額はこれまたベース引上げによる
増額分で需用費において二、四〇
〇円の増、環境衛生費において三
万円増額を計上いたしました。

▲『結核予防費』
九、〇〇〇円の増額計上は共に当
町は結核予防対策指定と相成つて
おる関係上遺憾のないような方途
が必要と相成る訳で、これに対し
県から結核予防費補助金として六
七、三二〇円の補助があるので
ございます。

◎産業経済費
一、三二八、七六〇円(四・四%)
昨年より五一四、五二五円増
▲『隔離病舎費』
四二、四〇〇円の前年度に比し二
〇、四〇〇円の増額計上ございま
すが増額の重なるものは監視人
手当の増額と小破修繕費の増額分
でございます。

▲『火葬場費』
五三、〇〇〇円の前年度に比し一
四、六〇〇円の増額計上でありま
すが死灰盤の購入と火葬場建物の
修理費等によるものであります。

◎『産業経済費』
▲『農業委員会費』
において九七八、七六〇円、前年

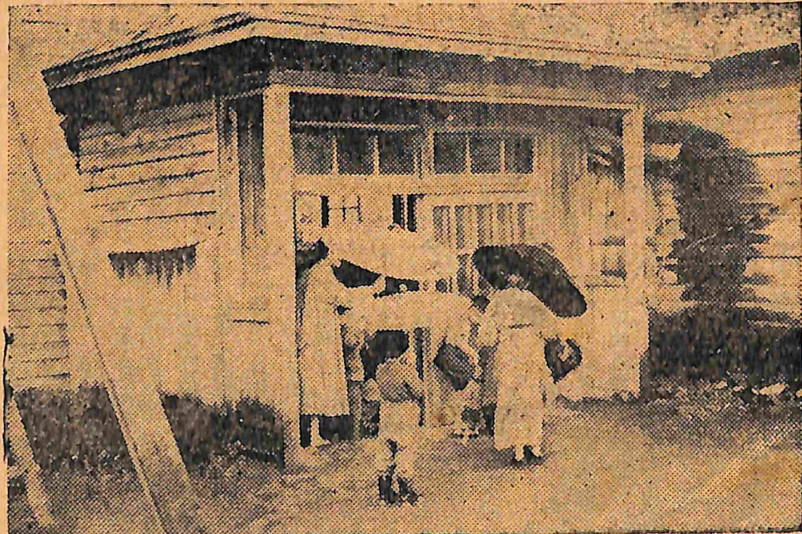
に比し二〇四、五一五円の増額計
上でございますがこの増額の主な
る分を申上げますと委員報酬にお
いて四八、〇〇〇円、職員給にお
いて七〇、二〇〇円、諸手当にお
いて二八、五八五円、これは何れ
もベース引上げによる増額であつ
て第七目の負担金において七一、
三二〇円の増額計上は主なるもの
でございます。

▲『簡工振興費』
これは二十万円で前年度に比して
十七万円の増額計上でございます
が、これは社団法人青森県信用保
証協会出資金の十万円とそれに観
校会負担金としての七万円がそれ
でございます。

▲『農協統合金融対策費』
新規に十万円を計上致したのでご
ざいますがお承知の如く産業の推
進には凡て資金の伴うものであり
ます。従いまして資金の円滑と否
とは経済面に敏感にひびくのは当
然で農業経営もまた同様であるの
でございます。

世は正に金融逼迫時代であり融資
もまた個人取引より団体取引へと
移行して参つたのでございます。
農協より離脱して農家個々の力を
以てしては低利金融は望めず高利
資金に依存するの外はないものと
存するのでございます。

殊に高利資本金による農業経営こ
そは農家経済をして破滅に導く惧
れが多分にあるものと信ぜられる



(改装なつた金木町保育所)



のでございます。

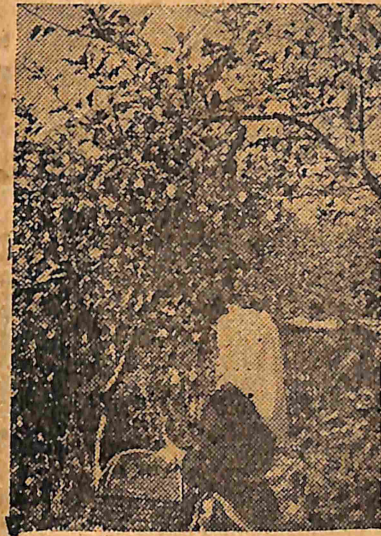
当町における農協分定の在り方を
見るに何れも弱小にして資金難に
喘ぎつつある現状かと思考せら
れるのであります。

今にして農協の一本化統合を見な
かつたならば農家の自立は勿論町
経済に及ぼす損失もまた相当大な
るものあると考えるとき全く憂慮
に堪えない次第でございます。農
協の一本化推進につきましては昨
年八月の町議会においても強く論
議せられ理事者といたしましても
常に一本化を考案いたして参つた
のでございます。

幸い昨今に至りましては各組合共
統合の機運が見えて参つたようで
これは独り組合員自体のみの福音
でなく町全体の一大福音と信じて
疑わぬところでございます。

▲『林橋振興対策費』
これを当町といたしましては將
来の重要産業の一つでございます
のでこれが施策として講習講話会
等を開いて林橋に対する培養、害
虫駆除等に現下の情勢からみて最
も憂慮されるころの販路打開策
等に関する知識の修得に貢献致し
たい意味から微々たる予算でござ
います。二万円を計上致した次第
でございます。

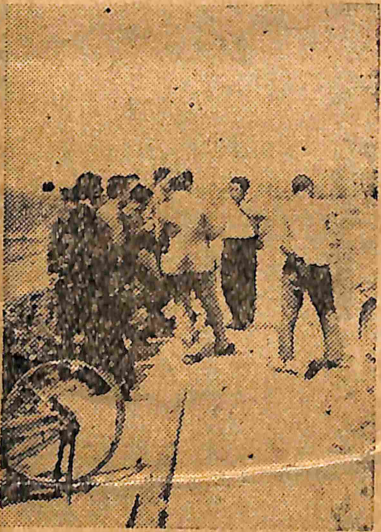
(林 橋 の 摘 果)



▲『浮洲地区を調査の係員及び町関係者』
これもまた重要な問題で承知の
如く金木一嘉湖間の浮洲地帯四五
五町歩に亘る耕作農家は灌漑にま
た年々の水害に多年悩まされ続け
て参つたのでございます。その間
における精神的な支離の面
損耗を患う時全く同情の念察し得
ないものがあるものでございます。
関係農民は多年その苦しみより脱
却するの意に燃え、排水工事の施
工方を呼びつけて参つたのでござ
います。本職もまた町長親任以來
これが促進実現に渾身の努力を以
て取り組み実現の一日も早かれか
しと再三度農林省に係官を訪問し
交渉陳情の結果国費補助を以て青
森県営金木地区排水ポンプ事業所
として排水工事を施工致すべく目
下微力を尽しこれが実現を期して
おるのでございます。ありますがたく
も融雪早々これが調査に乗り出す

こと相成つた次第でございます。今
町といたしましてはその重要工事
の促進実現につきまして促進対策
費として少額ではございますがこ
こに二万円を計上致した次第で
ございます。

(浮洲地区を調査の係員及び町関係者)



なお本工場の調査検分を兼ね町町
村長並びに関係者代表と協議の意
味合をもつて明二十七日には農耕
地課より係官が参ることになつて
おります。

以上を持ちまして産業経済に対す
る説明を終ります。本予算計上総
額は百三十一万八千七百六十円で
前年度に比し一四、五一五円の
増額計上でございます。

▲『第九款「財産費」』
財産費計上予算は三三二、五二五
円で前年度に比し三三、五七九円
の増となつております。その増額
分は火災保険料の増額でございます。

▲『第十款「統計調査費」』
（原負担額は二三、八〇〇円）統
計調査費予算は五四、〇〇〇円で
前年度同様の計上でございます。

▲『第十一款「選挙費」』
選挙費計上総額は二二六、七〇〇
円で前年度に比し一六三、八〇〇
円の増となつておりこの内訳は選
挙管理委員会費で六五、九〇〇円
で前年度に比し一〇、一〇〇円の
増、参議院議員選挙費で五二、
五五〇円で新規計上でございまし
て、これに対して全額国庫補助
を見込んでございます。

▲『第十二款「公債費」』
公債費の総額予算は一、四五〇、
一七二円、前年度に比し一七、
七六二円の増となつており内訳を
申し上げますと元金償還金において
一三、三〇二円で前年度よりも二
円の減となつており、長期債利
子において一、三二六、八六九円
で前年度に比し九一、三六四円の
増、また一時借入金利率において
一、二〇、〇〇〇円で前年度に比し
八六、四〇〇円の増となつており
ます。

▲『第十三款「諸支出金」』
諸支出金の総額予算は二七九、三
七九円で前年度に比し一〇八、八
七九円の増額計上となつておりま
す。この内訳について申し上げます
と公金取扱金の二八、〇〇〇円で前
年度に比し三、〇〇〇円の増、徴
税費の滞納処分費は一三、〇〇〇
円で前年度に比し三、〇〇〇円の
増、報償金（電気ガス税）は九、
八六〇円で前年度に比し三、八六
〇円の増

▲『第十四款「地方振興費」』
地方振興費の予算総額は十九万三
千円で前年度に比し五万円の増額
計上でございます。

この増額分はラジカエ東出資金五
万円の新規計上によるものでござ
います。

▲『第十五款「予備費」』
につきましては予算運用上必要欠
くべからざるものでございます。前
年度より五五、〇八七円を増額し
三十万円を計上いたしました次第
でございます。

以上を持ちまして歳出予算の概要
的説明を終りたいと存する次第で
ございます。

(金木だよりを印刷してくれる東奥日報社印刷局)



【歳入】

次に歳入予算についてそのあらましを御説明申し上げます。

まず第一款の町税収入の二、二八五、七七円の計上でありまして、これを昨年度当初予算七、四〇三、三五〇円に比較いたしますと四、八八二、四〇七円の増収と相成っております。

つきに主な税目について概要を申し上げますと町民税において四五〇万円が昨年度当初予算に比し一、六九九、一〇〇円の増、即ち自然増収の見込でございます。

つぎの固定資産税において五、六〇三、〇〇〇円で昨年度当初予算に比し一、九三九、四五〇円の増、即ちこの増額は今回の町税条例の改正に基く増収見込額の百五十万円自然増収見込額の四三九、四五〇円と相成っております。

荷車税において二万円増収と相成っております。

次に第二款地方財政平衡交付金五十六万円の計上でありまして、これを昨年度当初予算に比較いたしますと三十五万円の増収と相成っております。

第三款の公企業及財産収入の二万四、五〇〇円は昨年度と同額計上でありまして、

第四款夫役及び現品収入において三百円の計上は昨年度と同額計上でありまして、

第五款使用料及び手数料の二、三九九、六〇〇円の計上でありまして、昨年度当初予算に比較いたしますと一、一、二、五〇〇円の増収と相成っております。

第六款国庫支出金の四、四〇九、六五五円の計上でありまして、これを昨年度当初予算三、九一九、八〇〇円に比較いたしますと四八、九千八百五十五円の増収と相成っております。

この内訳を申し上げますと、この産業経済国庫負担金において三、八万円、昨年度の一八万円に比し二十万円の増となつており、国庫補助金を四、〇二九、六五五円計上致しましたが、昨年度の当初予算に比較致しますと二、八万九千八百五十五円の増収と相成っております。

この内訳は国有林野所在町村交付金において昨年度同様十二万円、

住宅建築補助金の百五十万円で昨年度に比し八、九万四千二百円の増、社会福祉施設補助金の二、四万九千六百五十五円で昨年度に比し二百三十九万五千六百五十五円の増と相成っております。

つぎの第七款県支出金の、〇九七、四七七円の計上でありまして、これを昨年度当初予算四八、七三〇円に比較致しますと一、〇四八、七四七円の増収と相成っております。

この内訳を申し上げますと、この内訳を申し上げますと、統計調査費負担金において二、八〇〇円で昨年度に比し五、四〇〇円の増、県補助金の結核予防費補助金において六七、三二〇円で昨年度に比し三三、九九〇円の増、選挙補助金において一、一五、一五〇円の増、社会福祉施設補助金で九〇万一千二百七円の増と相成っております。

次に町債において五、七五万円の計上でありまして、これを昨年度当初予算三、四〇万円に比較いたしますと二、三五万円の増、この内訳を申し上げますと、教育費借付小学校改築費充当として五百万円、公営住宅建築費充当として七五万円と相成っております。

以上をもちまして昭和二十八年度歳入歳出予算案とその他の諸議案に対する御説明を終りたいと存する次第でございます。

以上をもちまして昭和二十八年度歳入歳出予算案とその他の諸議案に対する御説明を終りたいと存する次第でございます。